

TEAM TARO



SANMEI Team TARO PLUSONE TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

JSB1000
11



2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第6戦 SUPERBIKE RACE in KYUSHU

大分県・オートポリス (1周=4.674km)
クラス: JSB1000 マシン: BMW M1000RR タイヤ: BRIDGESTONE
2022年8月27日(土) 天候: 晴れ コース: ドライ
予選: 9番手 (タイム: 1分50秒428)
2022年8月28日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ
決勝: 8位
観客動員数: 5,700人 (2日間合計)





TARO BMW M1000RR と共にステップを踏み8位



全日本ロードレース選手権シリーズ第6戦が大分県・オートポリスで行われた。今回からシーズン後半戦に突入。前半戦は2レース制で行われてきたJSB1000クラスだが、第6戦オートポリス、第7戦岡山国際と1レースのみの開催となるが、最終戦鈴鹿は初めて3レース制で行われる予定となっている。

SANMEI Team TARO PLUSONEとして初めて鈴鹿8耐を戦ったが、狙い通りにBMW M1000RRの理解度が進んだ。すぐにオートポリスで事前テストがありハードだったが、チームスタッフを始め、多くの方の協力のおかげでスケジュールをこなすことができていた。

事前公開テストは、不安定な天候となったが、ドライコンディションで走り始めることができ、上々のフィーリングだった。前半戦、そして鈴鹿8耐とステップを踏んできた手応えを、ここでも感じる事ができていた。オートポリスに合わせて足回りを進め、2日目は電子制御を中心にセットを進め、タイムも納得いくところまで詰めることができていた。



レースウィークは、オートポリスには珍しく安定した天候に恵まれた。午前、午後と足回りを詰めていき、決して調子

は悪くなかったが、もうワンランク上を狙ってリアサスペンションの仕様を変更し公式予選に挑んだ。



土曜日青空が広がり、日差しが強かったため路面温度が予想以上に上がったことでコンディションが変わり、セッション序盤はアジャストしながらマシンの状態を確認。そしてセッション終盤にニュータイヤを履きタイムアタック。1分50秒428までタイムを縮め9番手で予選を終了した。この予選で転倒したライダーが欠場することになり、グリッドは1つ繰り上がり8番手グリッドからスタートすることになる。



日曜日決勝の時間には路面温度が上がる事が予想されたため、朝のウォームアップ走行では、マシンセットは変更せず、予選のままの状態で行き込みレースに備えた。



スタートは、うまく決まり7番手で1コーナーに入っていくが、3コーナーで秋吉選手にかわされオープニングラップは8番手で戻ってくる。2周目に入るホームストレートで清

成選手に抜かれ9番手。清成選手は、すぐに秋吉選手もかわして前に出たため、これに関口も続いていきたいところだった。しかし、レース序盤は、今ひとつリズムが悪くペースを上げられないでいた。秋吉選手と何度か抜きつ抜かれつを繰り返した際、ギアが落ちずにコースアウトしそうになる場面もあったため、気持ちを落ち着かせて再び秋吉選手をかわすと、自分のペースを取り戻していき、後続を引き離すことができていた。



そしてレース終盤になると、再び後続が接近してくる。最後のバトルに備えて備えようとしていた14周目のホームストレートで白煙を吹いたマシンがあり、赤旗が提示される。レースは12周終了時点で成立となり、関口は8位というリザルトを残すことになった。

■関口太郎コメント

「鈴鹿8耐に出たことでBMW M1000RRのことを、かなり理解できてきたので走り始めから、いいフィーリングで走ることができました。レース序盤は、今ひとつペースを上げることができなかったのですが、徐々に調子をつかみ8位争いをリードすることができていました。レース終盤に向けて勝負する体制を整えていたところで赤旗が出たのでラッキーな部分もありましたけれど無事に8位で終えることができました。さらに上を目指して残り2戦4レースを全力で頑張ります」



TARO

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com